

通訳案内士5年の更新時に、通訳案内士として習得すべき事項について

- ・以下のいずれかの研修の1つの受講を条件とする
- ・5年の更新年又はその前年までの受講を対象研修とする。
- ・各地域の通訳案内士団体の活動を支援する方向で制度化していただきたい。
- ・JNTO等の告知により、所属団体以外、他地域からの人も参加できる仕組みを作る。

項目	研修内容とその背景	実施方法
<p>最新の通訳技術の習得</p> <p>大都市等で実施</p>	<p>国際観光を取り巻く状況の変化は、激しい。</p> <p>例えば、2010年受験、2011年合格者は、2016年の今年、更新年を迎える。2011年の訪日外客数は、621万人であったが、2015年は、1974万人に増加した。</p> <p>この間、訪日客の多様化が進んだ。東京、京都、大阪といった大都市観光のほかに、高山、金沢、広島、高野山などをJRパスを使った旅行客が増加した。</p> <p>また、国籍の多様化に伴い、イスラム教徒や、ノンネイティブ英語の顧客が増加した。ゼネラルトピックのテーマとしては、受験戦争、塾、高い家賃といったテーマから、少子化、地震などのテーマが多くなった。日本食への関心が高まり、体験型観光も増加した。</p> <p>一方、スマートフォンやSNSの普及が進み、各種の情報が入手しやすくなった。神社仏閣の年代や地名、固有名詞を暗記して話すだけのガイドの価値は低下した。近年では、スマートフォンを活用して、バスの車内で、テレビ画面を活用したガイディングさえ、生まれている。</p>	<p>JNTO等から、各通訳案内士団体が受託事業として実施する。</p> <p>会場借り上げ、講師謝礼その他の運営費は、国で負担する。</p> <p>個々のテーマ設定、講師選定は、各通訳案内士団体が工夫する。最新の動向に対応している第一線のガイドによる研修(講演型)が望ましい。</p>
<p>地域の特性を踏まえた研修</p>	<p>今日、各地域での通訳案内士の活用が課題となっています。そこで以下の取り組みをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各県のエリアにおけるインバウンド及び通訳ガイドをとりまく状況についての報告と意見交換</li> <li>・ブロック単位又は広域的なエリアでのインバウンド及び通訳ガイドをとりまく状況についての報告と意見交換</li> <li>・第一線で活躍するトップレベルの講師を招へいして最新のガイドテクニックを学ぶ研修会</li> </ul>	<p>各運輸局又は各県が実施する</p> <p>または、各地域の通訳案内士団体が受託事業として実施</p> <p>各地域の通訳案内士が交流する絶好の機会</p>